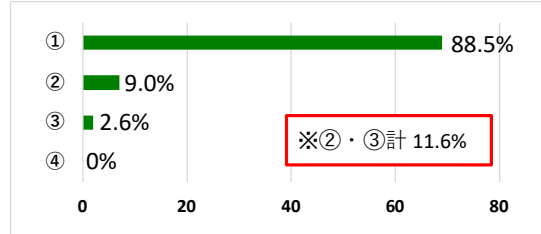


令和7年度 就職慣行等に関するアンケート調査（学校関係者）

【調査概要】

- ◆対象者 : 就職希望者が一定数以上の千葉県内高等学校の進路指導主事及び進路指導就職担当
- ◆回答者数 : 78人
- ◆記載事項について : 2、3は複数回答を認めているため合計値は回答者数を上回る。

1. 「一人一社制」についてどのように考えるか	
① 今の制度のままでよい。	69人
② 9月中から卒業まで同時に2社まで応募できた方がよい。	7人
③ 9月中から卒業まで数の制限なく応募できた方がよい。	2人
④ その他	0人



2. 「一人一社制」のメリットについて、ご意見に近いものを選択してください。 ※複数回答	
① 生徒にとって一社だけでも応募書類の作成、企業研究、面接練習と学業の両立は負担が大きい。	63人
② 複数社内定した生徒の内定辞退で、企業との信頼関係が崩れてしまいかねない。	44人
③ 複数社受験を可能にすることで倍率が上がり、1回目の試験の不合格者も増え就職活動の期間が長期化する。	25人
④ 最初から複数応募可とすると、内定を複数得る生徒と、内定をもらえない生徒と二極化する。	24人
⑤ その他	12人
【⑤ 回答者・自由記載（一部掲載）】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が応募書類の作成に専念できる。また、教員としても指導しやすい。 ・ 早期離職の防止につながる ・ 2社以上だと「とりあえず内定を取る」ということが目的になりがちだが、1社の場合はじっくり考えた上で応募するためミスマッチが少なく学校としても責任を持って推薦できる「一社に決める」という大きな決断であるからこそ社会人としての責任感（覚悟）を教える、育てることができる。 ・ 複数応募を可とした場合、応募前職場見学や就職採用選考に関する連絡件数が増え、その結果として連絡の伝達漏れ等による事故につながるおそれがある。 	

3. 「一人一社制」のデメリットについて、ご意見に近いものを選択してください。 ※複数回答	
① 生徒が企業を知る機会を妨げている。	13人
② 第二希望以降の企業を同時に応募することができ安心できる。	10人
③ 応募先をなかなか1社に絞りきれない生徒がいる。	25人
④ 結果が出るのに時間がかかる企業の場合、結果を待っていると次の応募ができなくなる。	49人
⑤ その他	10人
【⑤ 回答者・自由記載（一部掲載）】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1社に真剣に絞ることによって不合格時の精神的・時間的負担が大きい（大きな挫折感になりかねない） ・ 選択肢が狭まる ・ 生徒が不採用となった場合に、そこから再度選考に進む必要があるため精神的な負担が大きい。 ・ そもそも権利として複数応募を阻害できない 	

4. 新規高等学校卒業者の就職活動に関するご意見やご要望	
【自由記載（一部掲載）】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関東圏でも就職活動のルールが異ってきているので、間違い・手違いが起こらないか、心配になります。全国的に同様のルールにしてほしいです。 ・ インターンシップを年間通して受け入れてる企業一覧リストみたいなものを各学校に送ってほしい。 ・ ちょうど変わるタイミングだったのかもしれませんが、求人票に書かれていない試験があったようで、夏休みに対策してきたことが生かされなかった。（新たに試験追加や大学生ならまだしも、高校生なら求人票通りの試験をお願いしたい。） ・ インターンシップや会社見学の機会を増やすことを大事であると思う。ただ行かすのではなく、事前の準備を怠らないようにするための時間、必要経費（交通費・職員の会社見学など）のことを考えたほうがよい。 	